

## びぼうかがく

ずしりも崩落を防ぐため支保工を先行させることになる。また、やや締まった砂れき層等に対しては、ツルハンとシャベルが併用されるが、時にはピック(さく岩機の一つ)も用いられる。

以上は一応現在までの非発破による掘さくであるが、今後\*トンネル・ボーリングマシンが発達し価格も安くなると、発破工法によらずトンネルが掘さくされるようになると思われる。  
—発破工法。(佐久間 貞二)

**びぼうかがく 備忘価額** 正規の簿記の原則に従い、会計取引を適正な価額と勘定科目によって、すべてもうら的に順序正しく処理した結果、なおかつ生じた簿外資産や無価値資産に、貸借対照表とのつながりをもたせるとともに、財産管理的確化をはかる必要から備忘的に記録する目的で付された名目的な価額で通常円で表示される。

たとえば、帳簿価額が零となった償却済み有形固定資産の存在を示す備忘価額1円や鉄筋コンクリート造りなどの堅固な建物および構築物の備忘価額(法人税法施行細則第5条により残存価額に達するまで償却した後、さらに残存価額から1円を控除した額まで償却した場合)などがこれに当たる。国鉄においては備忘資産という制度があり、用途を喪失した乗降場・積卸場・ずい道などの無価値資産については、これを撤去するまで帳簿価額を備忘価額に改訂している。(庄野弘之)

**ビュフェ** (仏) buffet 原義は「食器戸だな」・「(宴席の)食卓」・「駅のホームの立食い食堂」等の意。

国鉄では昭和33・11 東海道線の電車特急「こだま号」運転開始のときに、在来のテーブル式食堂車を排し、モハシ21(現在のモハシ150)形という立食い食堂車を連結したのに始まる。

この形式は2等車室との合造で、食堂部分は長手方向中央部にカウンターを置いて、サービス・スペースと調理スペースを区分し、軽洋食を提供した。その後同36・3 東海道線に電車急行「なにわ号」が設定されたときに、カウンターの約 $\frac{1}{3}$ を、すしスタンドにしたサハシ153形が翌37・10には東北線に、すしスタンドに代わる、そばスタンド付のサハシ451形が登場し、以後列車増発の都度、洋食ビュフェと、すし+洋食ビュフェは東海道・山陽等の幹線に、そば+洋食ビュフェは上越・北陸等の亜幹線に続く登場し、東海道新幹線では、この決定版ともいべき電子レンジを備えたビュフェが採用された。(天崎 乃武雄)

## ひょうえりょかん 兵衛旅館(鉄道)

### 1 事業者の概要

名称 株式会社兵衛旅館、本社 神戸市兵庫区有馬町ウツギ谷、資本金 1,000万円、おもな事業 地方鉄道(鋼索式)・旅館、鉄道従業員7人、保有車両 鋼索客車1。

沿革 兵庫県の有馬温泉にある旅館で、昭和13・3・29会社を設立、宿泊客の便を考慮して鋼索鉄道を計画、昭和32・8・27免許。

### 2 地方鉄道線

万年・向陽間0.1km、単線、鋼索式、動力電気、軌間1.067m、昭和35・4・1開業。鋼索客車1両で定員20人、一方にカウンターウエイトをつけて運転する。

### 3 沿線の観光地

有馬温泉。  
なお運輸概況は右の表に示す。



年度	昭和		
	36	37	38
旅客輸送人員(千人)	136	168	159
人キロ(千)	11	13	12

(木川 卓)

**ひらおかひろし 平岡 熙** 安政3年田安徳川家の重臣の家に生まれ、明治の初めに洋行して鉄道車両・機械の研究を積み明治10年帰国、翌年鉄道に入り、同16年新橋鉄道局汽車課長となった。こえて19年権少技長に進み、同24年甲武鉄道の汽車業務を監督したが、この前後より独立して平岡鉄工場を経営し、初め小石川砲兵工廠内に作業場を置いた。のち本所錦糸堀に工場を移し、鉄道車両の製作に当たった。

明治27年北越鉄道株式会社創立委員に選ばれ、同年甲武鉄道株式会社の汽車課顧問を辞した。同29年井上 勝が汽車製造合資会社を創立すると、これと合併して東京支社となり、また井上社長の下に副社長となってこれを助けた。

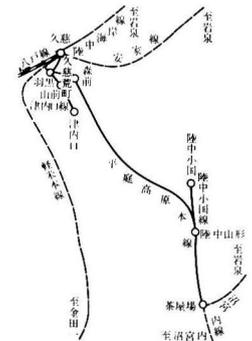
晩年いっさいの社会的名利を捨て、もっぱら芸能ひとすじに余生を送り、「吟舟」の号をもって、この道に鳴らした。特に江戸音楽の流れをくみ、新たに東明流と称する一派を創立したが、その作詩と作曲になる幾つかは、今日なお小唄の世界に歌われている。

当時の芸能界や花柳界に、平岡大尽の名は響きわたり、江戸のなごりの粋人ぶりを知られたものだというが、昭和9・5・6病没した。(篠崎四郎)

**ひらにわこうげんせん 平庭高原線** 八戸線久慈駅を起点として岩手県岩手郡葛巻町に至る路線およびこれに付帯する路線からなる国鉄自動車路線であって、所管する久慈自動車営業所および沼宮内自動車営業所は、それぞれ、岩手県久慈市および同県岩手郡岩手町にある。

### 1 区間・キロ程および沿革

平庭高原本線	久慈～茶屋場	45.1km
昭18・11・20開業		
津内口線	久慈荒町～津内口	6.3
昭32・4・20		
羽黒山前～森前		3.2
昭32・4・20		
陸中小国線	陸中山形～陸中小国	14.6
昭31・10・20		



本路線は昭和32・10・15 沼宮内西線および沼宮内東線から分離した。

### 2 営業範囲

平庭高原本線のうち久慈・大川間は旅客・手小荷物および貨物の、同線のうちその他の区間は旅客・手小荷物および特別扱小荷物の、その他の路線では旅客および手小荷物の取扱いをしている。

### 3 使命

この地方の産業文化の発展助成を使命としている。また\*沼宮内線と接続して、八戸線と東北本線の短絡をしている。

### 4 特長

岩手県内陸部を走る路線で、この地域の農民の足として大きな働きをしている。沿革的には原産地輸送の貨物路線として開業した。沿線には、県立公園平庭高原・久慈川の渓流があり、また内間木洞などの名勝も多い。(佐野 実)

**ひわこせん 琵琶湖線** 滋賀県高島郡今津町から同県伊香郡木ノ本町に至る国鉄自動車路線であって、所管する近江今津自動車営業所は今津町にある。

### 1 区間・キロ程および沿革

琵琶湖本線